

# サイエンスコミュニケーションが 図書館に期待すること

東北大学脳科学グローバルCOE 長神 風二

## サイエンスコミュニケーションって？

- 社会の中の科学
  - 科学的だけれど、科学だけで解決できない問題について考えること
  - 難しい先端科学を理解しやすい形に「調理」すること
  - 市民提案によって科学的な課題を科学者と共に考えること
  - ...
- 具体的な形
  - 理科系の番組、記事
  - 科学館・科学系博物館の展示・イベント
  - シンポジウム・実験教室・サイエンスカフェなどの催し
  - サイエンスショップ・コンセンサス会議などの取り組み

## サイエンスコミュニケーターから見た図書館

- 社会に溶け込んだ存在
  - 億人が知っている
  - ほぼ全ての町と学校にある
  - 普通の人が使っている
- 学術情報の出し入れに対する専門知がある場所
  - リファレンスとその履歴
  - 「知」の蓄積と統合
- 情報学の専門家がいる場所
  - 評価指標に対する強み

## 図書館とサイエンスコミュニケーションのこれまで

- 科学・医学などに関する本の貸し出し場所として
  - 内容が古びていくことに対する対策は？
- 文献の所蔵場所として
  - アクセスのオープンさは？、リポジトリの利用度合いは？
- 「会場」としての図書館
  - サイエンスカフェの会場として

名称	会場	主催	人数	実施頻度・回数
さばスライブラリーカフェ	鶴江市文化の館	鶴江市	30名程度	月1回開催
科学読物研究会 例会・くらべよみの会	杉並中央図書館	科学読物研究会	数十人規模	月1回開催
東北大学サイエンスカフェ	せんだいメディアテーク	東北大学	50-200人程度	月1回開催
総研大サイエンスカフェ	鶴山町立図書館	総合研究大学院大学	16人	1回開催
サイエンスカフェ	茨城県内の図書館各所	茨城県など	40人	月に7-8回開催(うち、図書館開催は2回程度)
サイエンスカフェ	神奈川県立川崎図書館	神奈川県立川崎図書館	40人	不定期に年に5度程度開催
サイエンスカフェ	大阪府立中央図書館	大阪府立中央図書館	70人	不定期に年に数度開催
展示「エイリアン展」in 千代田図書館	千代田区立千代田図書館	千代田区立千代田図書館	—	日本科学未来館での企画展開催期間に合わせて、2ヶ月間程度。同様の企画は、年に1度程度。

表1 図書館を会場としたサイエンスコミュニケーション活動の実践例

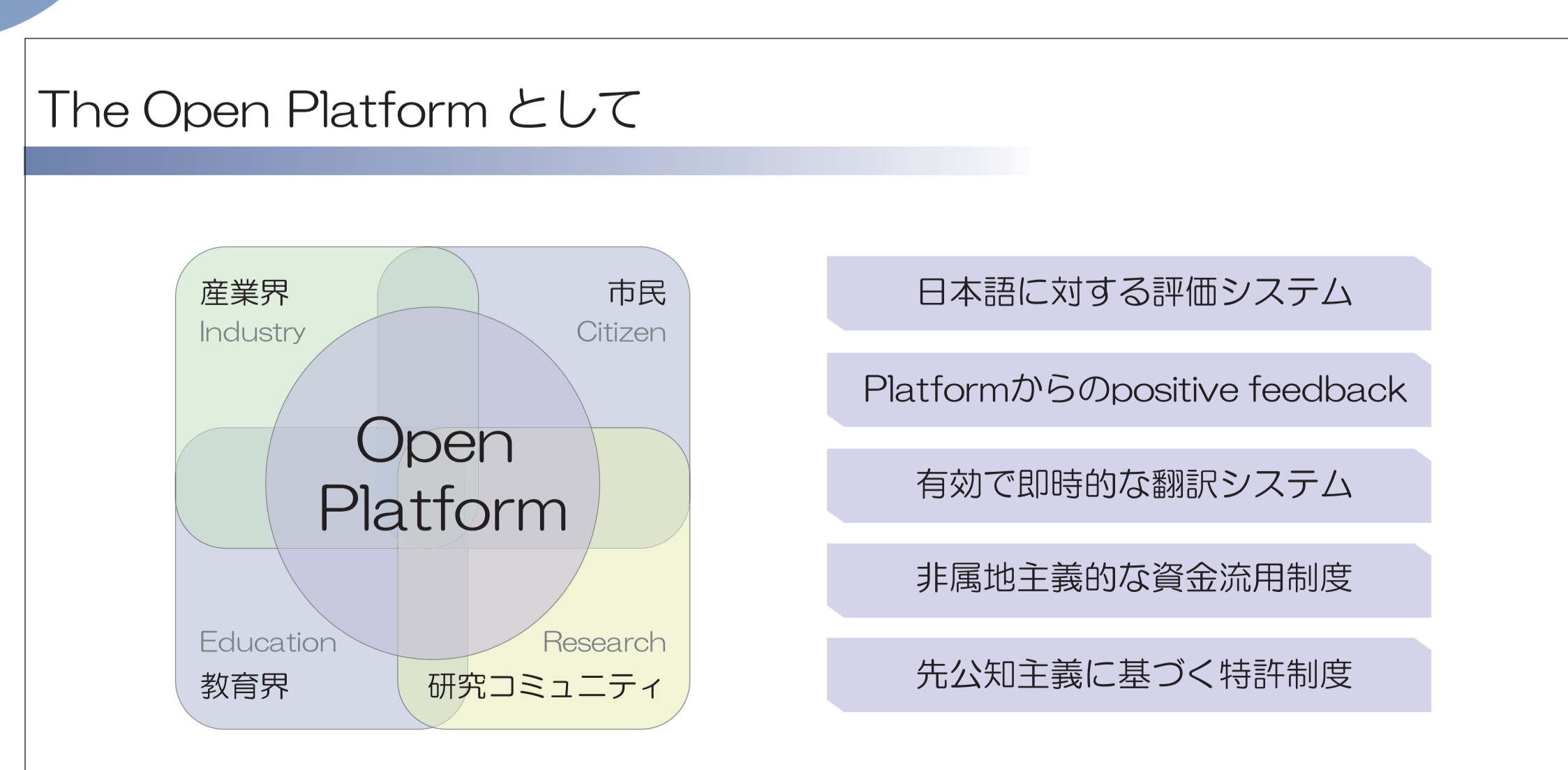
## サイエンスコミュニケーターが図書館に期待すること

- 意見・要望の集約機能
- 異なる知の体系をすり合わせるノウハウの提供
- 学術情報発信の直接的な媒介機能
- サイエンスコミュニケーション活動の現場としての積極的な機能
- 評価・統計データの専門知識・技能の提供
- 社会技術・社会実装開発支援への参画、窓口機能

## 相互利益モデルの実践

- 東北大学脳科学グローバルCOE「脳カフェ」 2009.7.12
- サイエンス側： 12日(日)にイベント実施
  - せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア (300人規模)
- 図書館側： 8日(水)から17日(金)まで特別書架設置
  - 同4F 仙台市民図書館エスカレーター脇
  - 100冊の脳科学関連書籍配架
  - サイエンス側メリット：
    - 告知・広報、事前・事後学習
  - 図書館側メリット：
    - 利用者拡大、書庫本活用

## 学術と社会が共進化するモデルの確立へ



### 謝辞

本発表は、一部、文部科学省グローバルCOEプログラム東北大学「脳神経科学を社会へ還流する教育研究拠点」からの支援を受けている。  
また、心からの感謝を、渡邊さよさん(倉敷芸術科学大学)、岡本真さん(Academic Resource Guide)、栗本美穂さん(東北大学脳科学グローバルCOE)、梶原修さん(大阪市立大学)、日高真子さん(科学技術振興機構)、小澤弘太さん(国立国会図書館)、林和弘さん(日本化学会)、永井裕子さん(日本動物学会)、佐々木章子さん(仙台市民図書館)に。

連絡先： f-nagami@mail.tains.tohoku.ac.jp